

## 第11回分野別セッションを開催

分野：「准教授の4人が皆様の不安を企業の強みにしてみせます」 (建築・デザイン／都市社会学系)

■平成21年5月14日(木) 15:00～18:30 18:35～19:45(交流会)

技術系はもちろん、総務、人事、危機管理、全ての担当者のためになる術の紹介で、実物展示もありました。参加会員数は、11社 12名でした。

- 講演1 「質実剛健な生活習慣を身につけて、社員全員、家族も幸せを維持する術！」 横山 淳一 准教授 (キーワード：生活習慣、行動変容、支援情報システム)
- 講演2 「温故知新発の新感覚素材で、身体も心体も生活習慣の根底から改善する術！」 須藤 正時 准教授 (キーワード：和紙、衣、再生、安全)
- 講演3 「リスクと向き合う～計画・マネジメント」 秀島 栄三 准教授 (キーワード：ビジネス思考法、産業防災)
- 講演4 「共存共栄なナゴヤ発の寄生思考からの、世界初お披露目の建築の生成の術！」 北川 啓介 准教授 (キーワード：日本一発想法、日本初発想法、寄生技術、泡建築)



## 第12回分野別セッションを開催

分野：「環境・バイオ・高分子材料技術懇談会」 (生命・物質工学科)

■平成21年7月9日(木) 15:00～16:00 16:10～19:45(技術懇談会)

初の試みで、技術懇談会中心のセッションを開催しました。まず、教員が、短時間で話題提供をした後、3時間近くの個別技術懇談会に入りました。じっくりと技術相談等ができたようです。参加会員数は、11社 13名でした。

- 話題提供1 「膜タンパク質の組織化と機能化」 出羽 毅久 准教授 (キーワード：光合成細菌、膜タンパク質、バターニング、光電子機能)
- 話題提供2 「微生物による環境技術」 堀 克敏 准教授 (キーワード：廃水処理、水浄化、バイオフィルム、スライム、土壌・地下水浄化、排ガス処理、コンポスト、バイオマス、廃油処理、環境浄化、生分解性材料、バイオ(微生物)触媒、酵素、微生物、グリーンバイオ、微生物固定化)
- 話題提供3 「高分子材料のデザインと合成」 高木 幸治 准教授 (キーワード：分子設計、重合反応、芳香族系高分子、電子光機能)
- 話題提供4 「高分子材料の性質」 猪股 克弘 教授 (キーワード：高分子材料、物性、形状記憶、リサイクル)



### 「分野別セッション」の今後の進め方

#### —「分野」が変わる?—

2年前にスタートした分野別セッションは、「環境材料」「電気・電子」「機械計測」「情報工学」「建築・デザイン、都市社会」「生命・物質」などの学科別に、講演会でのシーズの開示、交流会での懇談・議論を通じてフォローアップテーマを見つけ出すことを目的に企画しました。しかし、産学が連携して受託研究や共同研究の芽を見つけ出す上では、学科別の構成は、必ずしも十分なものとは言えませんでした。

昨年、6分野の第1ラウンドを終えた時に、幹事教員と協議して若干の見直しを図りました。学科別の構成を踏襲しつつもセッションの内容や、やり方を統一するのではなく、産学連携の真の果実が得られるよう分野ごとに教員と事務局が工夫を凝らしていくことにしました。例えば、シーズの紹介時間を出来るだけ短くして講演後のセッション(教員との議論・討論)に重点を置き、教員側も説明方法をさらに練り上げてのぞみ、その甲斐あって第12回分野別セッションではフォローアップテーマが出てきました。

今年、第12回分野別セッションが7月9日に開催され、全6分野の第2ラウンドが終了して、いよいよ第3ラウンドに入るわけですが、この機会に、「分野」そのものの見直しを図っていこうと、只今、検討段階に入ったところです。産学が連携して受託研究や共同研究の芽を見つけ出す機会となるために企業と社会のニーズに即して、学科の枠を超えて、例えば ①環境対応 ②省エネ、リサイクル ③新材料・ナノ材料・微細構造、④安全・安心・快適などのセッションへと編成していこうと考えております。また、技術懇談に時間をかけ、会員と教員との膝詰の懇談の中で具体的な課題に至り、受託研究や共同研究など形あるものへと発展していけたらと思います。見直しのための会議を重ねる必要があり、次回は10月になる予定です。

より良いセッションにしていくために、皆様からのご意見等もお待ちしております。今後とも引き続き、ご協力の程、宜しく願い申し上げます。

### 事務局長 新任のご挨拶 縁結びを目指して

本年6月の総会において、前任の森田事務局長より、近藤が事務局長の任を引き継ぎました。前職の科学技術振興機構(JST)では、競争的資金の公募を担当しておりました。企業の方にも、ご活用頂ける公募資金等もございますので、広くお知らせしていきたいと思っております。また、世話好きな性格を生かして会員の皆様と名工大の縁結びに努めてまいりますので、ご指導、ご支援、ご協力の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



#### 開催予定:

- ・第13回分野別セッション 平成21年10月下旬頃
- ・名工大・名市大合同テクノフェア2009 平成21年11月4日(水)
- 会場：名古屋市中企業振興会館(吹上ホール)

### 〈入会申込・お問合せ先〉

名古屋工業大学研究協力会  
事務局  
〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町  
名古屋工業大学 産学官連携センター内  
事務局長：近藤 慶子  
Tel, Fax: 052-735-5538  
E-mail: kyoryoku-pal@ml.nitech.ac.jp  
\*研究協力会HPもご覧下さい。  
<http://partner.ccr.nitech.ac.jp/>  
行事案内・入会案内・事業報告は、このサイトで見ることができます。  
\*ご担当者や連絡先(Tel, Fax, E-mail)が変更になった場合は、ご一報ください。

発行 名古屋工業大学研究協力会事務局  
平成21年9月10日発行(年3回発行)

## 「信頼し合える産学官連携を築くために」

名古屋工業大学 理事 産学官連携センター長 水谷尚美

名古屋工業大学研究協力会の会員各位には、平素本学の研究活動に暖かいご理解とご協力を頂いておりますこと、先ずもって御礼申し上げます。

私が本学の理事に就任し、産学官連携センター長としてその運営に携わる様になって一年余が経過致しました。この間、私自身の企業人であった経験を生かし、これまでと少し視点を変えた、新しい産学官連携の取り組み方を学内に提案し、あれこれ試行錯誤を重ねております。

本日は、皆様から産学官連携を進めることに何となく躊躇する理由としてよく御指摘を受ける典型的な課題について、お話しさせて頂きたいと思っております。

#### 「機密保持と学会発表」という問題について

この問題は古くから言われてきた、産学官連携のクラシッな課題とも言えるテーマかもしれません。企業と大学が共同で研究を行い成果が上がれば、大学では論文発表という形で成果発表に結びつていくようになるでしょうし、企業にしてみればその成果はできるだけ他人には知らせたくないのは至極当然なことかと思っております。そのため本学では、先ずは特許申請という形で知的権利の確保を行った上で、そのあとで学会発表をするなど、企業の開発活動への影響を最小限に抑えることを心がけております。本学ではコア出願制度と言って、特許庁とのダイレクトアクセスのシステムを有効利用する事で、論文発表という形で成果が公開になる前に、迅速にかつ比較的簡単に特許申請が行えるようになっております。このシステムは本学が開発した独自のシステムとして、全国的にも高く評価されているものです。

大事なことは当事者間の利益を最大限守ることです。この為、本学では共同研究のテーマの設定、進め方、機密保持のための方策を知財活用部門の教授・准教授のスタッフがアドバイスをしながら共同研究を進める仕組みも構築されつつあります。

#### 「不実施補償」という問題について

不実施補償とは、企業の皆様と共同研究をさせて頂いた結果、共同で獲得した知的財産権(特許)に対し、相当の対価(ロイヤルティ)を求めるといことです。これは共同研究をした企業からすれば、自分の特許なのに何故使用料を払わねばならないかという一見矛盾した様に思える問題があります。しかし、大学は企業活動をしているわけでは無いので、保有した特許を自ら利用して利益を生み出すことができません。この為、特許を共同保有する相手企業にその特許の持つ価値相当分の補償を求めると言う考え方です。即ち、特許を維持するためのコスト、特許の価値が生み出す成果の分配への期待でもあるわけです。とはいえ、企業の立場を考慮すれば闇雲に権利を主張されてもなかなか了解しがたい面もあります。

つまり、お互いがその立場に固執すると、本当に価値のある共同研究を進めることが難しくなります。そこで、本学では共同研究の内容を吟味して、特許の譲渡、独占実施権の付与、優先実施権の付与など、その選択には企業サイドの立場を考慮してフレキシブルに対応できるように内規の整備を急いでおります。

最後になりましたが、この6月より協力会の事務局長が替わりました。新任の近藤事務局長には「研究協力会のコンシェルジュ」として、会員企業皆様のどんな相談でもお受けして、大学との架け橋になってくれるものと期待して下さい。特に、直接大学の教員には相談し難いような内容とか、相談してよいものか迷うような内容など、何なりと気さくに相談して頂きたいと思っております。

今後とも、皆様の名古屋工業大学へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



目次：水谷理事挨拶「信頼し合える産学官連携を築くために」	1
名古屋工業大学研究協力会 第10回総会概要	2
徳田恵一教授のすすめる世界最先端研究とは	3
第11、12回分野別セッション実施内容、「分野別セッション」の今後の進め方、他	4